

全国 3000 万署名・推進ニュース NO.13

発行日:2006年10月4日 発行:全教・日高教・教組共闘

- 山梨 - 「県民の会」総会開催し、署名をスタート！ 目標は2万筆

「ゆきとどいた教育をすすめる山梨県民の会」は、9月29日に、2006年度の「総会」を開催し、2006年度の3000万署名をスタートさせました。



総会では、昨年度の8,458筆の署名を集約した運動と、これまでの10年間のとりくみで04年度に「小学校1年生に30人学級の選択実施」、05年度には2年生まで拡大されたことは「10年間で10万筆を超えた署名は、県民の共感的反応が高まってきた県民要求の成果である」と、総括。そして、父母・県民の教育に対する要求は渦巻いているとして、「2006年度の3000万署名と、教育基本法を守り生かすとりくみとを結合して発展させよう」、「今年度の目標2万筆を達成しよう」と、方針が提案されました。

参加者から、「署名の要請に様々な団体を回ったら、民医連の病院は県民の会として自覚されていて協力的だった。そのような団体に、もっと金銭的な負担の要請を行ってもよいのではないか」との積極的な意見が出されました。提案は、参加者全員の拍手で確認されました。

次に、全教の高橋中執が、「3000万署名の到達点と課題」とのテーマで、1時間講演しました。

「高校生の息子に負けないよう署名がんばります」と、参加者

その後、運動の交流が行われ、参加者から積極的な発言がありました。小学校の教員は、昭和34年の大月市での中学校の卒業式で「憲法が生かされていない」との答辞が行われ、市教委が「偏向答辞」として担当した教員を処分した歴史を紹介し、「憲法・教育基本法を守る課題は、古くて新しい課題であり、3000万署名とともに全力でたたかいたい」と、発言しました。また、事務職員のお母さんは「先生方が教育基本法に熟知していない、学習していくことが武器になる」と語り、さらに、東京の私学で学ぶ息子さんが3000万署名に生徒会としてとりくんでいることを紹介し、「子どもに負けないよう、頑張りたい」と、決意を語りました。さらに、NTTに勤める労働者からは、北海道でリストラ裁判に勝利したことを紹介し、たたかわない労働組合のため、労働者の生活が苦しくなり、子どもたちの学習権が脅かされている、仲間と力を合わせ署名を成功させたいと語られました。

県民の会では、15日には共立病院の「健康まつり」3カ所での署名行動を行うなど、11月19日のスーパー前での署名行動まで、計6日間の街頭署名活動を計画しています。

- 東京 - 都民の日に 上野駅と立川駅で署名行動

ゆきとどいた教育をすすめる都民の会は、毎年おこなっている10月1日「都民の日」の3000万署名街頭署名を、上野駅と立川駅で行いました。

立川駅の署名行動には、私学の組合員と父母、都教組、都障教組、そして全教から、計25名が参加。熊の着ぐるみが登場し、ヘリウムガスの入った風船を配りながら、署名を訴えました。ハンドマイクでの「少人数学級を実施していないのは、東京都だけ、都内の子どもたちにもゆきとどいた教育を保障するために、30人学級を実現させよう」との訴えに、足を止め、話しかけてくる方が多数ありました。

高齢の方は、「附属の学校だったが、先生のほかに数名の教育実習生が常に2~3人いて、分からない子どもには丁寧に指導していた。先生を増やして、どの子にも分かるように指導してほしいね」と。また、子どもづれのお母さんは、「安倍さんの所信表明を聞いたが、教育のことがよく分からなかった。どうして、教育基本法を変えようとしているのですか」と話しかけて来られ、十分近くの懇談後、署名してくださいました。

1時間30分の署名行動で、471筆の署名を集めることができました。

